

全国青年部会 第9回全国遊技業青年部会交流会開催

10月26日、茨城県水戸市の水戸京成ホテルで「第9回全国遊技業青年部会交流会」が開かれた。茨城県遊協青年部会（李晃明部会長）の幹事担当のもと行われた交流会には、23都府県の青年部会員78名が集まり、業界課題を討議すると共に、交流を深めた。

全国青年部会は、遊技業のこれからを考えるために、次代の業界を担う全国の青年部会員が一同に会する機会として開催。親睦と連携を通じて全国に協力し合える仲間を作ること、今後の遊技業界のさらなる発展に力を尽くすことを目的としている。

幹事を務めた李部会長はあいさつの冒頭、徳川光圀公が基礎を築いた水戸学が幕末の志士たちに大きな感化をもたらし、明治維新の原動力になったことを紹介。「その言葉に『愛民』『敬天愛人』という考えがある。

人を中心に考えようという考えかたと思う」と引きつつ、「我々を取り巻く状況を振り返れば、まさに人を中心に考えたい。ここに集った青年部のメンバーは、向こう10年・20年とこの遊技業を守り、発展させていくため、社会に受け入れられる娯楽とは何なのか、在るべき姿を示していかねばならない」と問題提起。「真に我々が向き合うべきものは何であるのか、建設的なディスカッションを通じて対応を具体的に示すことを目指したい」と意欲的に語った。

当日は、基調講演で西村直之氏（リカバリサポート・ネットワーク代表理事）が「IR時代に向かうパチンコ・パチスロ依存問題」をテーマに持論を展開。業界がなぜ依存対策に取り組まなければならないのか、その理由に言及した。

西村氏は、「IRの議論が始まっ

たからパチンコの依存問題がクロージアアップしたのではなく、社会とパチンコの関わりが、政府の対応含め、よりシビアに問われているからだ」と指摘。その中で、遊技業界がやるべきこととして、「社会に対するパチンコの明確なビジョンの提示」「娯楽としての必要性・有用性の証明」「科学的・客観的根拠の集積」「業界目線ではない、迅速かつ、目に見える対策」「国民に信頼される対策の実施・評価・事実の発信」の5つを掲げ、「日本の文化として誇れるパチンコを実現していつて欲しい」と強調した。

続いて、エンタテインメントビジネ

ス総合研究所・代表取締役社長の藤田宏氏が進行役となり、「競争から共創へ」をテーマにグループディスカッションを実施。「基調講演の感想共有・業界としての課題」「店舗・業界として何ができるか」「競争から共創へ」みなでできること」の順番に、意見を出し合った後、「競争から共創へ」みなでできること」について議論。藤田氏が「この交流会も9回と会を重ねてきた。皆でできる『共創』を実行できる何かを打ち出してはどうか」と提言するなか、その具現化において全国遊技業青年部会として英知を集めていくこととした。



なお夕刻からの交流会では、次回担当青年部会を発表。鹿児島県遊協

の西川雄一部会長が、皆に再会を呼びかけた。

真城ホールディングス

真城代表取締役社長が「第66回中小企業団体愛知県大会」で表彰

真城ホールディングス（名古屋市東区）は10月16日、名古屋市中村区のキャッスルプラザで行われた愛知県中小企業団体中央会主催の「第66回中小企業団体愛知県大会」において、同社の真城貴仁代表取締役社長が、愛知県の中小企業団体の発展に

貢献したとして表彰された。なお真城社長は、愛知県遊技業協同組合の副理事を務める。

同大会では、愛知県内の企業の97%を占める中小企業が、地域経済の基盤を支え持続的に発展していくために、持ち前の機動性・創造性を活かしながら中小企業組合の連携力を存分に活用し、積極果敢に課題解決を図り、組合の力により中小企業の安定的な発展と豊かな社会の実現を目指すとの宣言があった。また来賓祝辞では、愛知県の「大村秀章知事より」「日頃の活動や愛知県内の中小企業の発展に感謝するとともに、中小企業の力は不可欠な存在。今後のさらなる成長と発展を期待する」との祝辞が贈られた。

